

# 小学部高学年ブロック研究

# 1 研究グループの概要

- 在籍児童 12 名（5 年生 6 名、6 年生 6 名）
- 研究対象授業：国語・算数
- 研究グループの構成は、担任 6 名＋小学部主事

## 2 研究経過

### ①実態把握

- 「ラーニングマップ」を使い、国語・算数の実態把握をし、各教科の単元や指導目標の設定を行った。
- 「ICT活用能力実態シート」を活用し、児童のICT活用能力についての実態把握を行った。

## ②授業実践・授業改善

- ・実態把握により見えてきた課題に向けて、iPadとアナログ教材を併せた授業の実践。

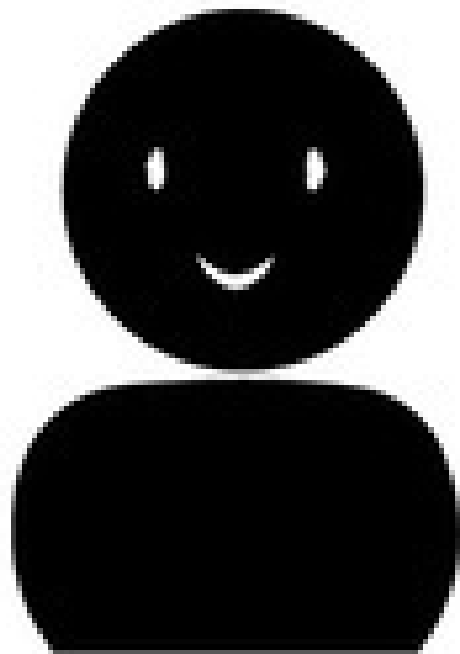


- ・グループ研究で付箋紙法を用いて、グループディスカッションを行った。複数の教員の視点から、児童の課題達成や力を伸ばすための取り組みについて意見交換や、課題点の整理などができた。



- ・グループ研究で出された意見や課題点を基に授業改善を行った。

# 取り組みの様子



小学部 5年 Aさん

国語・小学部 2段階  
【書くこと】

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校			
授業場面	個別学習 個に応じた学習			
ICT活用に 係わる学習内容	A知識及び技能	○	基本的な操作等	
	B思考・判断・表現			
	C学びに向かう力、人間性等			
iPadアプリの使用目的： ひらがなのかきとり				
iPadアプリ「写真」 iTunes K.K.		活用場面		
				
学部	小学部	学年	5年	
障害種	知	肢	教科	国語
単元名	【言葉】			
指導の段階	特・学習指導要領	小学部 2段階	指導内容	「書く」
児童生徒の様子				
<ul style="list-style-type: none"> <li>紙で書く時よりも集中して取り組むことができる。</li> <li>筆圧が弱いため、鉛筆だと字が薄くなってしまいが、iPadだと弱い筆圧でもしっかりと書くことができよ。</li> <li>自らどんどん書いている。</li> <li>教師と一字ずつ読み方を確認した後に、声に出して読みながら字を書いている。</li> </ul>				
良かった点、改善点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の集中力向上</li> <li>紙の節約</li> </ul>				
実践に必要な環境・機器等				
実践に必要な物品やソフトは総称を記入 <ul style="list-style-type: none"> <li>teams でファイルを共有すると楽。</li> <li>photo</li> </ul>				

# 「ラーニングマップ」

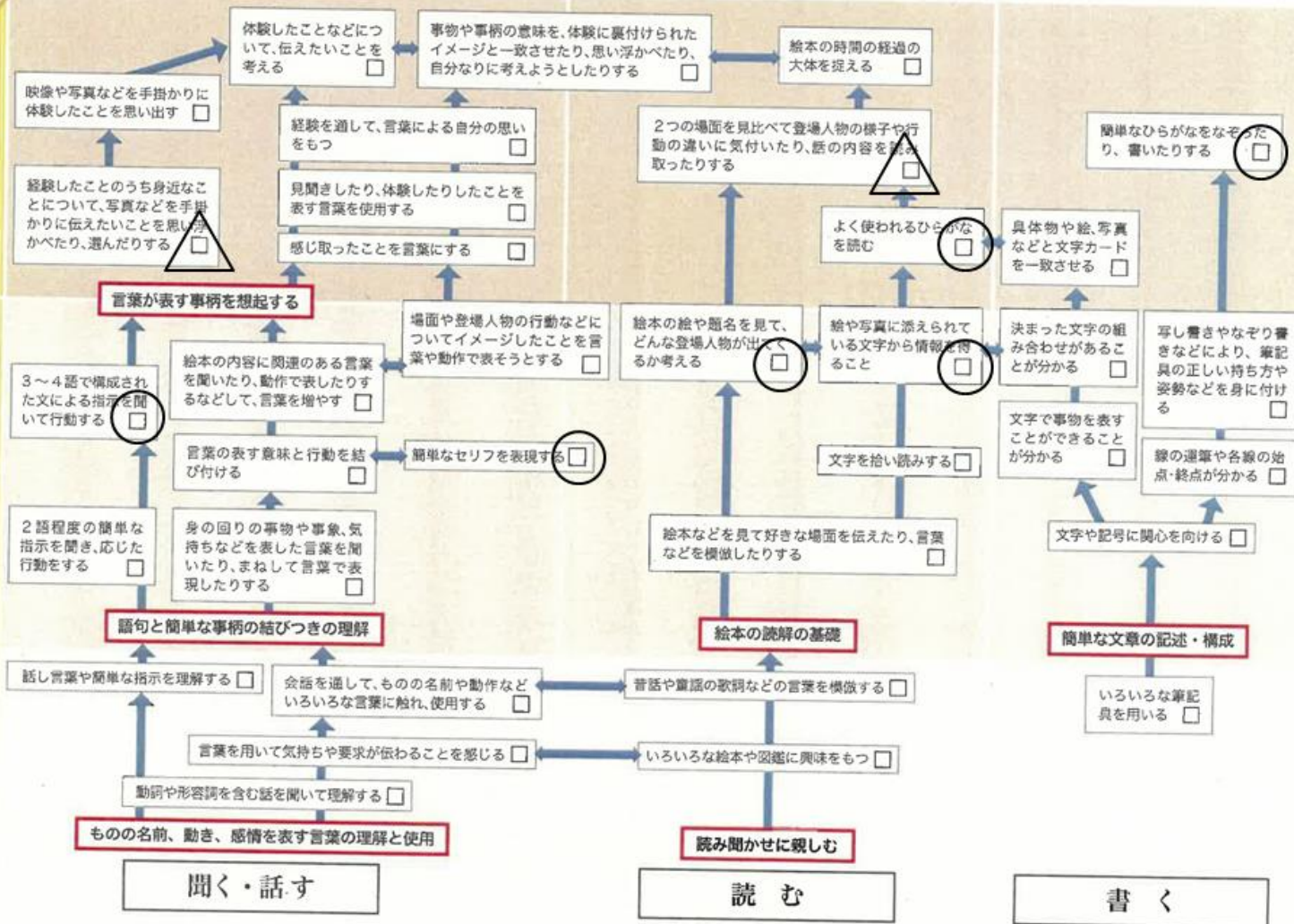
## 小2 国語

特別支援学校（知的障害） 国語科 小学部2段階

STEP 3  
言葉と経験、  
イメージを  
結び付ける

STEP 2  
簡単な事柄を  
言葉で理解し  
表現する

STEP 1  
名詞・動詞・  
形容詞を含む  
言葉の理解と  
使用





## 日常生活の様子



小学部5年 Aさん

- ・言語理解力は高く、語彙も豊富である。
- ・冗談を言ったり、相手の反応を見ながら会話を楽しんだりできる。
- ・聞く力は高いが、文字を読むこと、書くことにあまり気持がなくて、日常生活でも読んだり書いたりしようとする様子は見られない。
- ・聴覚優位である。⇒4(し)、7(しち)、8(はち)が混同。7、8、ときたら数字を見ずに9と答えてしまう。
- ・自信がなく、間違えることへの不安で答えられないこともある。



### 仮説

- ・聞く力は高いので読む・書く力を高めれば、文字や言葉の理解がより深まっていくのではないかと。

## 国語・算数に関する実態



小学部5年 Aさん

- ・ 名前は見本を見なくても書くことができる。
- ・ 苗字を書く学習に取り組んでいる。
- ・ 50音を音で覚えている。（「か」の次は「き」など、単語を読む時に頭文字で判断してしまう。
- ・ 確実に読むことができる平仮名は数文字程度である。読める文字も、別の単語になると自信がなくなり読めなくなる。
- ・ 5までの数量の理解ができる。
- ・ 10までの数の数唱、順序が分かる。
- ・ 物の大小、多少、長短の比較ができる。
- ・ 短期記憶が苦手である。
- ・ 集中できる時間が短い。集中が続くのは3問程度。

## 【教科名】 国語

## 【単元名】 ひらがなを書く

## 【学習指導要領上の段階】 小部 2 段階

## 【単元の目標】

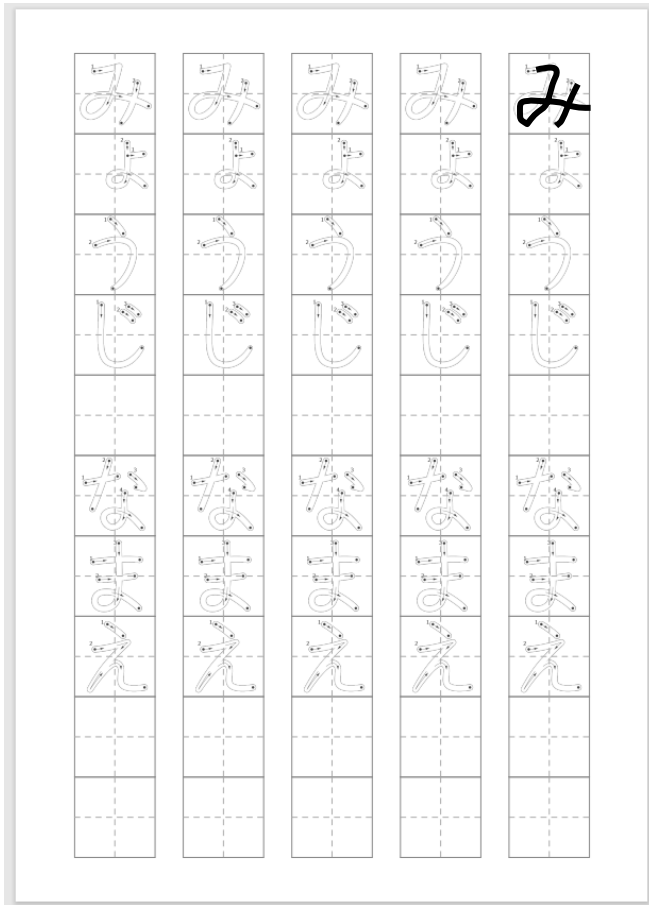
知	・自分の名字と名前を手本を見ずに平仮名で書くことができる。
思	・手本を見て、始点と終点を意識しながら書くことができる。
学	・タブレットを用いて平仮名や片仮名の単語の書き取りに進んで取り組もうとしている

## 【本時の内容】

- ・一文字ずつ確認しながら、自分の名字を書くことができる。

## 【本時の目標】

知	・か、し、わ、ぎの字を正しくなぞることができる。
思	・一文字ずつひらがなの読み方を考えて書くことができる。
学	・タブレットを用いて平仮名や片仮名の単語の書き取りに進んで取り組もうとしている



## 教材

- ①「かきかたプリントメーカー」でプリントのPDFを作成。
- ②Tesmsのチャット機能でPDFを共有する。
- ③iPadでファイルに保存をし、フリーボードで開く。  
(学習アプリ活用パターン：見本型)

## 手立て

- ①名前の確認（姓・名）
- ②プリントを見ながら、一文字ずつ読み方を確認。
- ③姓と名を書くごとに読み方を確認する。

## 良かった点

- ・児童の集中力が向上した。
- ・「戻る」操作ができるため、間違えることに対する恐怖心が軽減される。
- ・読み方を確認してから（アナログ）、書く。児童の理解度の把握や適切な支援ができる。

## 課題点

- ・読み上げ機能があるとよい。
- ・字を見ずに次の字をこたえることがある。徐々に減少した。



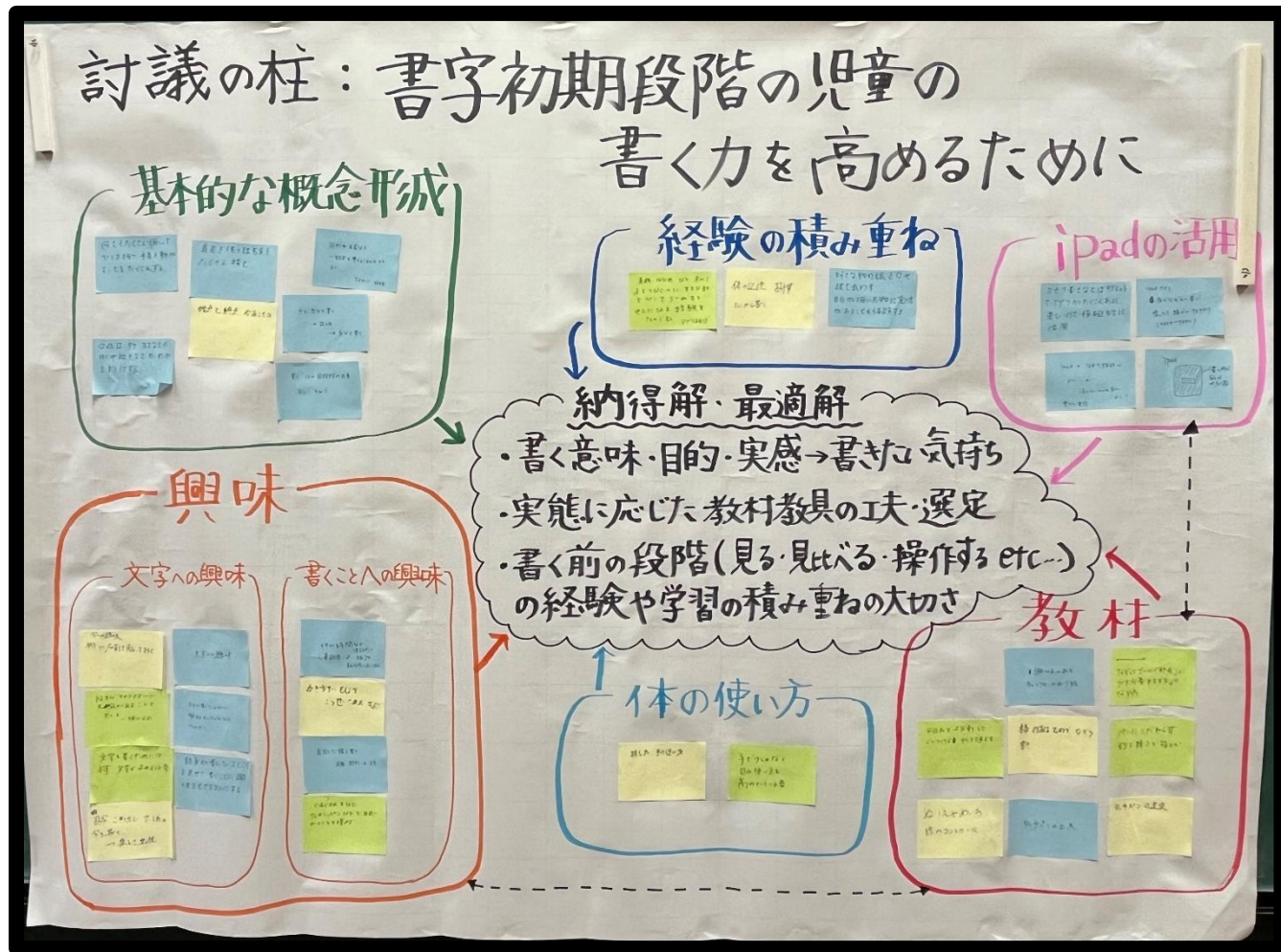
iPad



フリーボード

# 付箋紙法によるグループディスカッション

討議の柱：「書字初期段階の児童の書く力を高めるために」



# 授業改善

## 基本的な概念形成

- ・ ○△□たてよこななめ
- ・ 始点、終点
- ・ 道具を使う経験

## 経験の積み重ね

- ・ とにかく書く、体に記憶させる
- ・ 自分が書いた物に意味があることの経験
- ・ 読む書く構成するそれぞれの角度からのアプローチ

## iPadの活用

- ・ なぞり書き楽しく取り組める
- ・ 失敗を恐れず繰り返しできる
- ・ 音やアニメーションで達成感アップ

## 興味

### 文字への興味

- ・ 物に名前があることを知る
- ・ 好きなものの名前を扱う
- ・ 書く力だけでなく読む力も必要
- ・ 教師が書く様子に注目

### 書くことへの興味

- ・ ぐるぐる書きなど、書くことを自由に楽しむ経験
- ・ 休み時間のお絵描きや落書き

## 体の使い方

- ・ 手首を動かす活動、遊び
- ・ 手の使い方を高める
- ・ 目の使い方、見る力

## 教材の工夫

- ・ 塗り絵や迷路で線のコントロール
- ・ 枠のあるなぞり書き
- ・ タッチペンの精選
- ・ 平仮名のパズル
- ・ ペンにこだわらず砂に棒や指で書く

## 納得解・最適解

- 書く意味・目的・実感→書きたい気持ち
- 実態に応じた教材教具の工夫・選定
- 書く前の段階（見る・見比べる・操作する...etc）の経験や学習の積み重ねの大切さ

## 基本的な概念形成

- ・ ○△□たてよこななめ
- ・ 始点、終点
- ・ 道具を使う経験

など

## 経験の積み重ね

- ・ とにかく書く、体に記憶させる
- ・ 自分が書いた物に意味があることの経験
- ・ 読む書く構成するそれぞれの角度からのアプローチ

など

## iPadの活用

- ・ なぞり書き楽しく取り組める
- ・ 失敗を恐れず繰り返しできる
- ・ 音やアニメーションで達成感アップ

など

グループディスカッションを通して出た意見をもとに、授業改善として 部分の学習を取り入れた。

## 興味

### 文字への興味

- ・ 物に名前があることを知る
- ・ 好きなものの名前を扱う
- ・ 書く力だけでなく読む力も必要
- ・ 教師が書く様子に注目

### 書くことへの興味

- ・ ぐるぐる書きなど、書くことを自由に楽しむ経験
- ・ 休み時間のお絵描きや落書き

など

## 体の使い方

- ・ 手首を動かす活動、遊び
- ・ 手の使い方を高める
- ・ 目の使い方、見る力

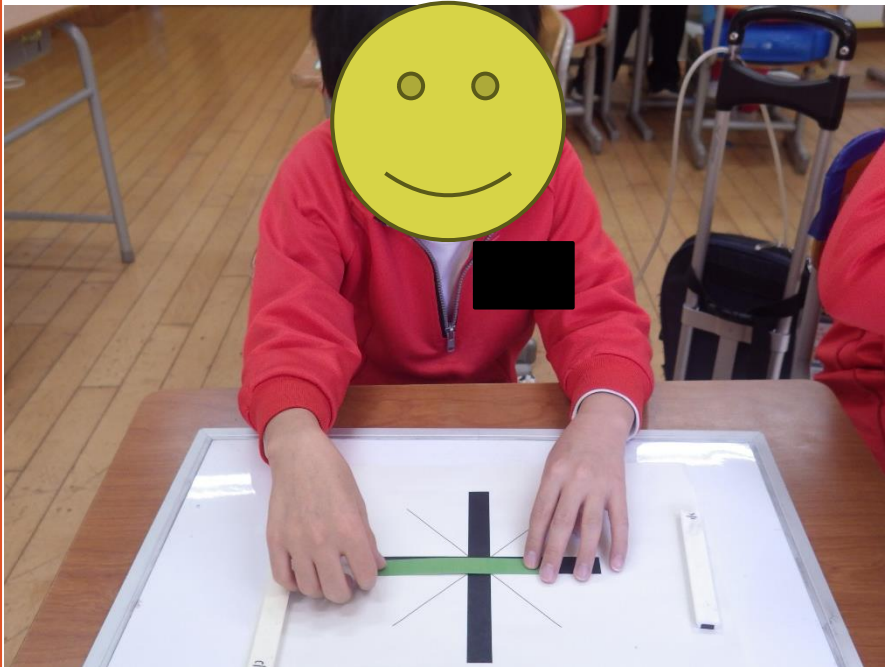
など

## 教材の工夫

- ・ 塗り絵や迷路で線のコントロール
- ・ 枠のあるなぞり書き
- ・ タッチペンの精選
- ・ 平仮名のパズル
- ・ ペンにこだわらず砂に棒や指で書く

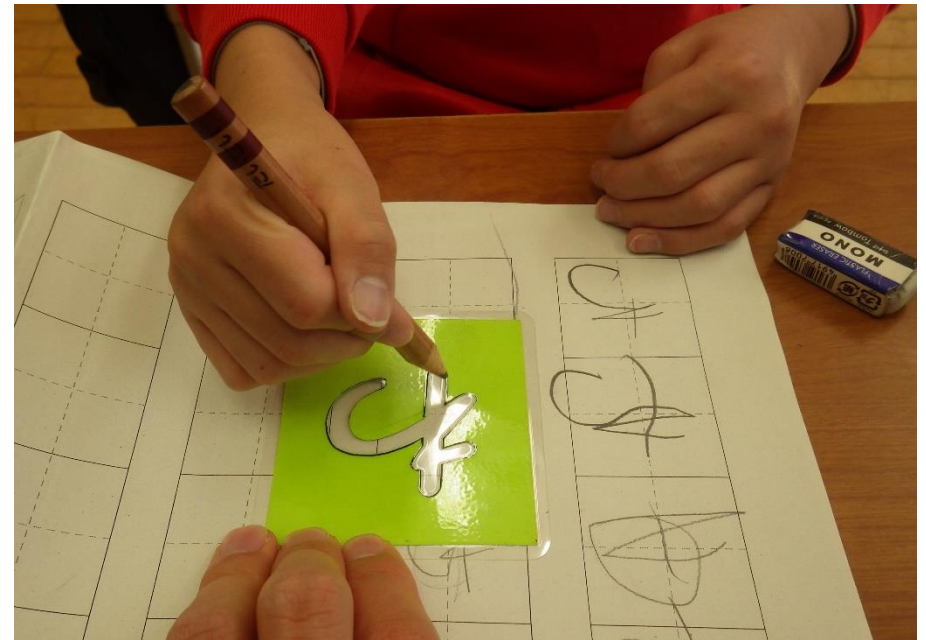
など

## たて・よこ・ななめ



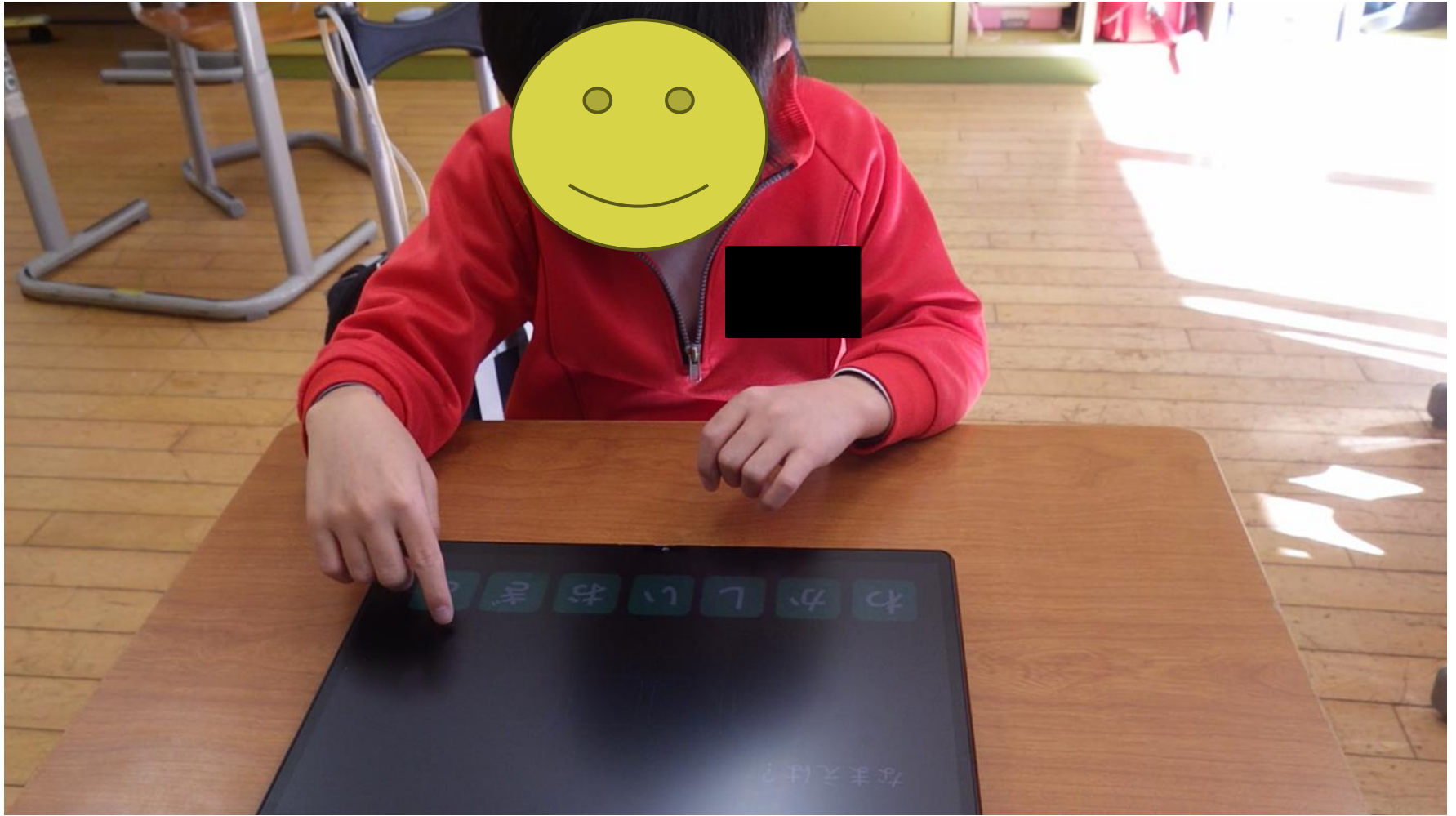
棒状のマグネットを使用し、見本と同じ形を構成する。  
平仮名を構成する線の向きや形、  
交差などに注目する力が高まった。

## 枠のあるなぞりがき



「書けた」という自信から書く意欲が高まった。  
文字の形に注意して書いたり、書き順を意識して書いたりすることができた。

## ひらがなの読み・構成（iPadを使用）



自分の名前の並び替えをした。名前に使用していない文字も含まれている。  
一文字ずつ文字に注目することができた。

### 3 成果と課題

- ・ ICT教材を活用することで児童の意欲と集中力が向上した。間違えることへの不安感が軽減された。
- ・ ICT教材（意欲・集中）とアナログ教材（実感を伴った操作・理解）を併せて取り組んでいくことで、より効果的に学習していくことができた。
- ・ 付箋紙法での意見交換を通して、様々な教師の視点から意見をもらい、授業改善を行うことができた。
- ・ 平仮名の理解を目標に取り組んでいるが、その前段階の学習の積み重ねも大切である。また、国語・算数だけでなく様々な教科を横断的に取り組んでいくことで言葉や文字の力も高まっていくと考える。